

小学校入学 を控えて



近年、小学校に入学する段階の子どもたちを見ると、実にいろいろな知識を持っています。子どもたちのまわりにはさまざまな情報があふれ、小学校でやるべきことを先取りして、就学以前にかなりの子どもが文字や数字などについて、たくさん知識を持っているようです。

反面、小学校での生活を支える基本的な生活習慣や行動様式がしっかり身につけていないため、学校生活をスムーズにスタートできないといった実態も増えていることが問題となっています。

では実際に、小学校入学を控えたところの子どものどんな点が問題となり、どんな力をつけていく必要があるのかを考えていきたいと思います。

昨年私たちは、市内の幼稚園、保育園の年長児を持つ保護者一四〇人に子どものしつけについてアンケート調査をしました。その中に「実際に子どもさんが

できることはどんなことですか」という質問に選択で答える項目がありました。その結果「自分で衣服の脱ぎ着をする」「おなかがい、トイレに行きたいなど自分の伝えたいことをはっきりいう」「親の名前、電話番号をいう」が七割以上の家庭でできると答えました。

それに対して、「使った物の後始末をする」「早寝、早起きをする」「食事を落ち着いてすわって食べる」「朝の排便の習慣ができている」「人の話を最後まで聞く」などは半分以上の家庭でまだ十分できないと答えています。

このアンケートについて詳しく載せることはしませんが、「家庭では意識してしつけをしている様子がうかがわれるが、基本的な生活習慣の習得がまだ不十分である」という意見が私たちの話し合いの中で出されました。

入学を前にした子どもの基本的な生活習慣とは「自分のことは自分で解決しながら集団の一員として生活していくために身につけること」ととらえられると思います。前述のアンケートで出てきた「自分の伝えたいことをはっきりいう」「自分で衣服の脱ぎ着をする」

も「使った物の後始末」「早寝、早起き」「食事の作法」「排泄の習慣」などすべてが基本的な生活習慣といえます。

また、「紐を結ぶ」「紙をきちんと折る」「鉛筆を削る」「りんごの皮をむく」なども習得しなければならぬ技能ですが、現代の便利な生活の中では経験していない子どもがほとんどです。しかし生活していく上では必要なことですから、意識的に経験させることも大切です。

平成四年度から小学校一、二年生に生活科が新設されました。昔ほどの家でも子どもが家庭の仕事をしなければならぬ状況だったのですが、今では体で物事を覚えることが少なくなりました。また、幼稚園、保育園では子どもが夢中になって動きまわる活動が中心であるのに対し、小学校では机の前

に座る学習がほとんどです。その意味で、生活科は幼稚園、保育園から小学校へと子どもの活動体験を円滑に進めながら自立への基礎を培う教科といえます。この学習の過程ではあいさつ、物の始末などの基本的な生活習慣や、はさみ、カッターの使い方などの技能も身につけようとしています。

もちろん生活科を学べば必要な生活習慣が習得できるわけではありません。あくまでも基本は家庭での教育です。

もうすぐ入学の時期をむかえます。学校生活にスムーズに入っていくけるよう、我が子の生活習慣についてもう一度考えてみませんか。

美峰画作品展

作品 桂母子グループ(心身障書写者)とその母のグループ(都留美峰画教室)
期日 4月8日~13日
開館時間 午前9時30分~午後4時30分(最終日は午後3時まで)
会場 ふるさと会館 1階展示ホール
問合せ 都留美峰画会 市川君子 ☎(45)0927

ガールスカウト 入団者募集

募集対象 新入学児童10名
その他の学年若干名

都留市郷土研究会 20周年記念講演会

都留市郷土研究会は昭和51年、地域の歴史や自然などの調査研究を通じて、郷土の認識と愛着を深めることを目的に発足、以来20周年を迎え、現在230名の会員数を誇る県内有数の団体となりました。

このたび、20周年を迎え記念講演会を開催します。

日時 3月9日 午後2時
場所 富士女性センター3階大研修室
講師 都留文科大学 久保木哲夫学長
演題 甲斐の古典文学
参加費 無料
問合せ 小林安典 ☎(43)3026



連絡先 ガールスカウト山梨第10団事務局 上谷2-4-8 長沼☎(43)3115
締切 3月末日
後援 市教育委員会 都留ロータリークラブ